

腎臓内科医師から説明!

慢性糸球体腎炎 の診断



中村 朋文

腎臓内科医師
なかむら ともみ

診断は、腎生検といって腎臓に針を刺して顕微鏡で調べる検査で確定診断を行います。治療は、扁桃摘出術とステロイドパルス療法になります(扁桃摘パルス療法)。血尿が持続しているような場合には良い適応です。

扁桃摘パルス療法

(扁桃摘出術およびステロイドパルス療法)

- 耳鼻咽喉・頭頸科にて、全身麻酔下で両側口蓋扁桃摘出術を行います。5～7日間の入院が必要です。



扁桃腺摘出前



扁桃腺摘出後

- 腎臓内科でステロイドパルス療法を行います。ステロイドパルス療法の投与法は、3日連続でステロイド薬を点滴で投与します。



ステロイド薬を点滴しているようす

IgA腎症は、昔は予後の良い病気と考えられていましたが、1990年代になり、発症後20年で40%前後の患者さまが腎不全に至ることが報告され、決して予後の良い病気ではないことがわかってきました。

IgA腎症では肉眼的血尿を認めない場合は、まったく症状はありません。しかしながら、腎臓に炎症は確実に存在しており、長い年月をかけて徐々に腎臓にダメージを蓄積していきます。腎臓は非常に忍耐強い臓器なので、腎不全による症状(全身倦怠感、食思不振、むくみなど多彩な症状があります)が出現するころには、透析が必要な一手前の状態です。この場合、すでに手遅れの状態であることがほとんどです。



全身倦怠感



食思不振



むくみ

風邪や胃腸炎のように強い症状がなければ医療機関は受診したくないものです。学校健診や職場健診などで検尿異常を指摘されても、痛みやきつきなどの症状がなければ医療機関の受診には消極的になると思いますが、IgA腎症が隠れている場合には、腎臓へのダメージは必ず存在しているので、しっかりと検査して治療することが大切です。当院では、腎生検による診断から、扁桃摘パルス療法まで行っておりますので、検尿異常を指摘された方は是非受診されてください。

くす通信

第231号
2020年5月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

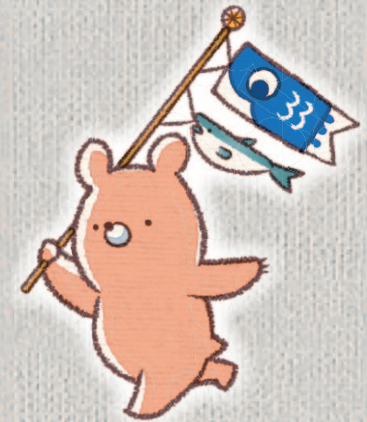
腎臓内科より

慢性糸球体腎炎とは?

腎臓内科より

慢性糸球体腎炎の診断

5月



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

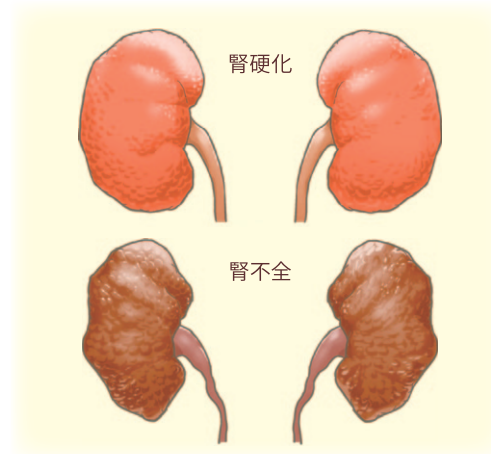
慢性糸球体腎炎とは？

腎臓内科医師

なかむら ともふみ
中村 朋文



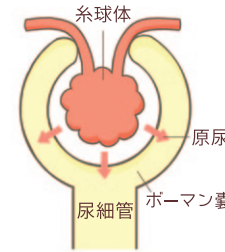
俳優の梅宮辰夫さんが腎不全で亡くなられて、記憶に新しく、腎不全って何だろうと思われた方も多いと思います。また実際に、腎不全ってどういう症状？と聞かれることが増えたように感じます。今回は、腎不全を引き起こす疾患の中で慢性糸球体腎炎について説明します。



腎不全の原因は、**1**腎臓自体に病気が発生する原発性と**2**腎臓以外で発生した病気が原因で腎臓が障害を受ける二次性に分けられます。これら病気により腎不全が発症し、進展すると血液透析などが必要な末期腎不全の状態となります。2017年

の統計では、血液透析導入の原因として、頻度の多いものから順に、**1**糖尿病（39.0%）、**2**慢性糸球体腎炎（27.8%）、**3**腎硬化症（10.3%）となっています。**1**糖尿病、**3**腎硬化症については、糖尿病や高血圧など他の疾患が原因で腎臓に障害が発生する二次性腎不全です。一方、**2**慢性糸球体腎炎は、腎臓自体に病気が発生する原発性腎不全です。

具体的に慢性糸球体腎炎とはどういった病気でしょうか。腎臓の中には血液をろ過して尿を作る糸球体という構造があります。慢性糸球体腎炎では、この糸球体に慢性的な炎症が生じます。その結果、血尿・蛋白尿たんぱくによを認める病気の総称で、特にIgA腎症がそのほとんどを占めるためIgA腎症について説明します。



IgA（免疫グロブリンA）とは、本来ならば体を守る免疫物質ですが、感冒や扁桃腺炎をきっかけに異常IgAが出現することがあり、これが腎臓に沈着して炎症を起こすことで、血尿や蛋白尿たんぱくによが出現します。ほとんどの場合、症状はなく、検診の検尿異常で発見されることが多いです。検尿異常には血尿、蛋白尿たんぱくによがありますが、検査でわからないような血尿が主体です（顕微鏡的血尿といいます）。また扁桃腺炎などに罹かかったあとに、眼で見てわかるような血尿が出現して見つかることもあります（肉眼的血尿といいます）。

当院の腎臓内科は、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会の認定施設です。当科では、高血圧、腎炎、腎不全、電解質異常など様々な領域に対応しています。また当院は三次医療機関として重症患者さまを受け入れている救急病院でもあり、合併症を発症された透析患者さまをはじめ、重症な腎臓疾患の患者さまを受け入れ、治療にあたっています。検査に関しては、エコー、CT、ガリウムシンチなどの画像検査はもちろんのこと腎生検にも対応しています。治療に関しては緊急の血液浄化から、腎炎・ネフローゼに対して行う免疫抑制療法など幅広い治療にも対応しています。特に生物学的製剤といった新たな機序の薬剤の使用経験も豊富です。

国立病院機構熊本医療センター

- 📍 診察日 月曜日～金曜日
 - 📍 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
 - 📍 受付時間 8：15～11：00
- 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
TEL 096(353)6501(代表)
FAX 096(325)2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科の受付は、水曜日以外の13：30～16：30となります。

※ 一部の科では、午後予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。